

秋の風

長唄 全詞章

松風 述

秋あきの空そら、徒あだし心こころに比くらべ見みん

松まつふく風かぜは音おとすれど、訪とはぬ男をとこのつら憎にくや

とは思おもへども

儘ままならぬ人目ひとめの関せきのはてしなさ

ほんにほんぼにうたてさを

包つつめばいとど胸むね迫せまり、泣なくも泣なかれず寝ねもやらず

〔ギン〕 うつらうつらと更ふくる夜よに、わけもないこと思おもひわび

袖そでの涙なみだの露つゆしぐれ、相合傘あひあひがさの仲なかの町ちやう、送おくり返かへせしその日ひより

文ふみの便たよりも秋あきの葉はの、染そめて悔くやしき思おもひ草ぐさ